フィジカルAIの未来を拓く二つの戦略：安川電機 vs. チトセロボティクス

日本政府が成長戦略の柱に据える「フィジカルAI（現実世界でモノを動かすAI）」。

安川電機：ハードウェアの巨人が描くAI戦略

百年の歴史が支える「精密ハードウェア」

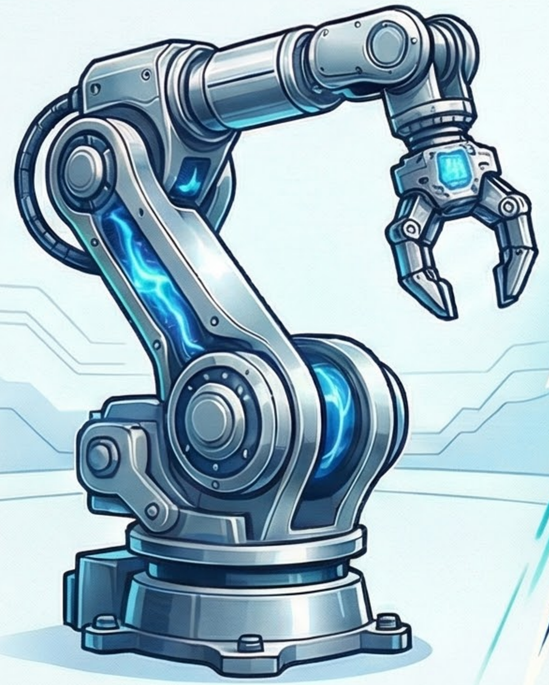
世界トップクラスの精密なモーター制御技術が、ロボットの正確な動作の基盤となっています。

自律ロボット「MOTOMAN NEXT」

AIとGPUを内蔵し、事前の動作教示（ティーチング）なしで自律的に作業を完結させます。

目指すは「多能工化」による新市場開拓

1台のロボットが多様な作業をこなし、物流や食品など未自動化領域に進出します。



チトセロボティクス：ソフトウェアが覆すロボットの常識

革新的技術「リアルタイム視覚フィードバック」

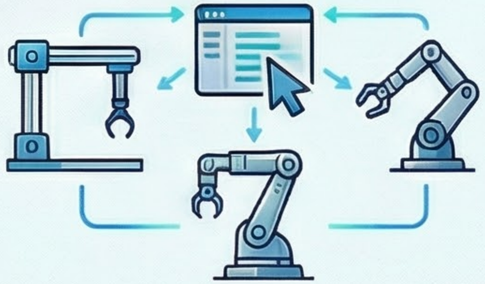
カメラ映像で常に動きを補正し、複雑な環境なしで0.02mmの位置決め精度を達成します。

「生成AI」との融合で直感的操作を実現

「青い電線を掴んで」といった自然言語の指示で、ロボットが自律的に動作します。

メーカーを問わない「汎用ソフトウェア」

制御ソフト「crewbo Studio」は、様々なメーカーの既存ロボットに後付けで導入可能です。



	安川電機 (Yaskawa)	チトセロボティクス (Chitose)
企業タイプ	1915年創業の老舗大手メーカー	2018年創業の大学発スタートアップ
コア技術	精密モーション制御（ハードウェア）	リアルタイム視覚フィードバック（ソフトウェア）
AI戦略	優れた「身体」にAIという「脳」を搭載	AIを枝とした革新的な「知能」を提供